

船山・青年部会長、セミナーの講師を務める

建築学会もファブの施工技術・知識を評価

当組合・青年部の船山聖喜部会長（三和鉄構建設(株)工場長）は、9月24日、広島工業大学・広島校舎で開催された第10回鋼構造セミナーで、講師を務められました。同セミナーは、日本建築学会中国支部の鋼構造研究小委員会が主催する学術的なセミナーで、青年部が講師を務めるのはもちろん初めてです。学術的なセミナーで講師を依頼されたことは、建築学会がファブが持っている施工技術・知識を高く評価した結果といえます。

第10回鋼構造セミナーのテーマは、「上下階でコラム柱のサイズを変更する仕口部の設計と製作」で、「ビルトボックス」、「テーパーコラム」、「既製品（スマートダイヤ）」、「柱を絞らない場合」の4種類について設計及び製作面でのメリット、デメリットを比較検討した。青年部は、仕口部の製作（コスト）を担当し、船山部会長はパワーポイントを使っておよそ30分にわたって詳細に解説した。



会場全景

セミナーの冒頭、鋼構造研究小委員会主査の高松隆夫・広島工業大学教授が「鋼構造セミナーは、鋼構造及びRC造の耐震セミナーとしてスタートし、10年前から鋼構造に関する諸課題についてセミナーを行っている」とこれまでの経緯を説明した。また「鋼構造研究小委員会は、鋼構造セミナー以外にも鋼構造実験見学会、鋼構造シンポジウムの3事業を毎年行っている。東京、大阪など都市を除いて、地方で毎年3事業を行っているのは、中国支部だけだ」と鋼構造研究小委員会の活動を紹介した。続いて、鋼構造研究小委員会・設計部会主査の田川浩・広島大学教授がセミナーの主旨について「上下階でコラム柱のサイズを変更する際に、既製品を使ってほしいという要望がファブさんから出ている。そこで、設計例を用いて仕口パネル部の3つの製作方法について設計と製作（コストを含む）の両面から比較検討した」と説明した。

最初に、JSCA中国支部の近松英樹・技術委員長（カナイ建築構造事務所）が、構造種別は鉄骨造の2階建て（X方向3スパン、Y方向1スパン）、構造形式はX、Y方向ともラーメン構造で柱は1階が350×350×16（BCR295）、2階が250×250×9（BCR295）の概要で、ビルトボックス、テーパーコラム、既製品（スマートダイヤ）、2階柱を絞らない場合の4点について、設計上の留意点について解説した。また、

既製品については、スマートダイヤのメーカーのセンクシア(株)の望月氏が製品の特長などについて説明した。

続いて、船山部会長が、4点それぞれの施工性、製作期間（材料の納期も含めた）、コストについてメリット、デメリットについて解説した。そして、施工サイドの総合評価としてビルトボックス（製作工場の山積みを見て加工できる。加工・溶接で手間がかかる）、テーパーコラム（既製品と



パワーポイントを使って詳細に解説した

して入るため人手が取られない。納期がかりコストが高い)、スマートダイヤ（工程が組みやすい＝納期2週間くらい。製品コストが高い）、柱を絞らない場合（工場加工費が安くなる。重量がUPする）などと解説した。

セミナーの最後に、青年部の岩土英爾前部会長（河野鉄工(株)社長）が「青年部として、こうした大勢の皆さんの前で発表するのは初めてであり、不行き届きがあったかもしれませんがご容赦いただければと思います。今回セミナーで発表するにあたって、清水先生やJSCAの方々との打ち合わせを通じて大変有意義な時間を過ごすことが出来ましたし、また大変良い経験をさせていただきました。今後も、さらに技術・知識を深め、ステップアップを図っていきたいと思いますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします」と締めくくった。



「発表の準備が大変有意義だった」と岩土前部会長

なお、当日の参加者へのアンケートでは、「ビルトボックス」、「テーパーコラム」、「スマートダイヤ」、「柱を絞らない場合」の4択では、設計者、ファブとも「絞らない場合」を選び、「絞らない場合」を除くと「スマートダイヤ」を選んだ。（以上）